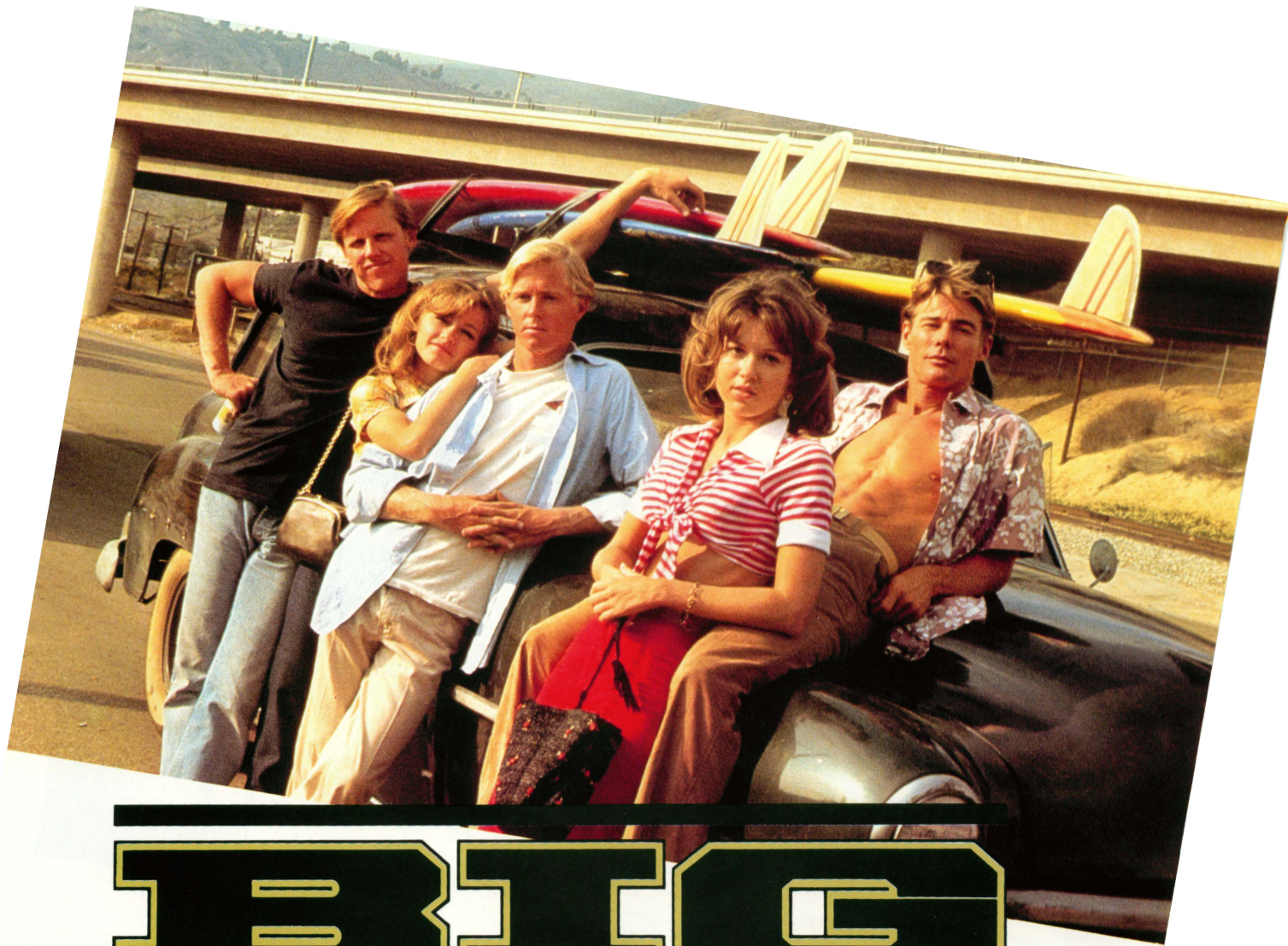




BIG WEDNESDAY

A・ティーム・プロダクション・ビッグ・ウェンズデー 主演 ジョアン・マイケル・ベンセント / ウィリアム・カッパ / ゲーリー・ビジー / 共演 パティ・ダーバンビル / リー・マーセル
脚本 ジョン・ミリアス & デニス・アーバー / 製作 バズ・フェイト・ジャンズ / 監督 ジョン・ミリアス / 製作総指揮 タマラ・アセイブ / アレックス・ローズ
サーフィン・シーン製作 グレグ・マクギリバレイ / 音楽 ベイシル・ボルドウリス / パナビジョン® / メトロカラー® / ワーナー・ブラザーズ映画  from Warner Bros.
主眼歌: ワーナー・バイオニクス・レコード / 原作: 角川書店刊

青春という名のパイプラインのなかで、ドラマは始まった。



ビッグ ウェンズデー

ジョン・ミリアス監督にとって、この映画を作ることは長年の夢であった。彼自身、一九六〇年代は青春時代の真只中で、サーフィンに情熱を燃やしていた。この映画は「ダーティ・ハリー2」「地獄の黙示録」などの脚本家として活躍しているジョン・ミリアスの「風とライオン」に続く3本目の監督作品となるわけだが、アイデアは古く、10年近くも彼の心の中で暖められ続けたものである。

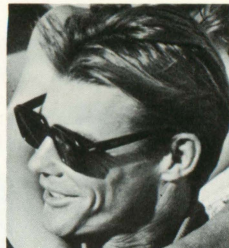
「ビッグ・ウェンズデー」は実話である。この映画に描かれている出来事は、いくぶんフィクション仕立てにしてあるものの、すべて実際に起こったことであり、登場人物たちも実在の人びとを合成したものである。

故郷、青春、夢、そして友情、この映画には心洗われるような懐かしさがある。これはジョン・ミリアスが限らない愛と優しさをこめて詩いあげた青春へのノスタルジーである。

彼が最も作りたかった映画だっただけに、あらゆるスポーツの中で最も映画化がむずかしいと言われるサーフィンを見事にドラマチックに描いている。

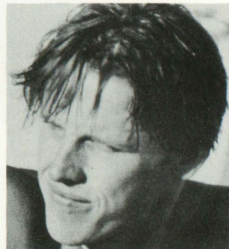
主演のジョン・ミリアス、ケリー・ビンセント、ウィリアム・カット、ゲリー・ビジーの3人も子供の頃からサーフィンをしてきたというだけに抜群のテクニックを披露している。今メキメキ売出し中の若手3人を囲んで、2人の新人女優パティ・ダーバンビル、リー・パーセル、実際にウィリアム・カットの母親で名女優のバーバラ・ヘイル、プロ・サーファーのジェリー・ロベス、J・リトル等が見事なサーフィンを見せている。彼らはこの映画のためにプロ大会への出場を断念したほどの熱の入れようであった。スタツタも斬新な感覚の名手ぞろい。撮影は「ダーティ・ハリー」のブルース・サティース、編集は「大統領の陰謀」のロバート・L・ウォルフが担当している。

ジョン・M・ビンセント



ポイント岬の最高のサーファー
ロングボードの王者…マット

ゲリー・ビジー



おかしなマノヒスト…リロイ

リー・パーセル



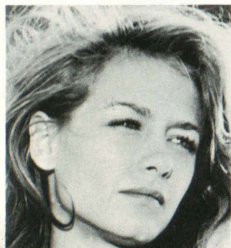
明るく可愛い娘…ベギー

ウィリアム・カット



若さの責任を堂々となう
ナイスガイ……ジャック

パティ・ダーバンビル



ジャックの恋人……サリー

BIG WEDNESDAY ビッグウェンズデー

1962年 夏《南のうねり》

カリフォルニアの海辺の町にはマット、ジャック、リロイを中心とする若者たちが、サーフィンを通じてグループを作っていた。彼らの夢は水曜日にやって来るといふ世界最大の波「ビッグ・ウェンズデー」に挑戦することだった。彼らの楽しみは仲間たちと集まって酒を飲むことと、唯一のビッグ・ウェンズデーの経験者であるサーフ・ボード作りの名人「ベア」にビッグ・ウェンズデーの話聞くことだった。

1965年 秋《西のうねり》

やがて、彼らにも激化するベトナム戦争のための徴兵命令が来た。マットやリロイ、そしてワクサーたちグループの大半が何とか徴兵を免がれようと奇抜なアイデアを考えているのをよそに、優等生のジャックは堂々と徴兵検査を受け、ベトナムへと赴任していった。そしてワクサーも。ジャックの歡送会は盛大に、そして悲しく行なわれた。帰って来いジャック、俺たちも、海も、サーフ・ボードもお前を待っているぞ……

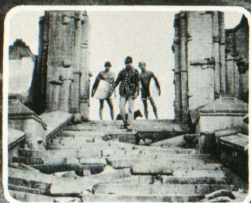
1968年 冬《北のうねり》

そして3年後、ジャックは帰って来た。懐しいカリフォルニアの海へ。マットとの再会はサーフ・ボードの上だった。ジャックはその足で恋人サリーを訪ねた。だが彼女はすでに結婚してしまっていた。マットとジャックとリロイの3人は、とうとう帰らぬ人となってしまったワクサーの墓の前で酒をくみ交し、泣いた。そして闇の中をそれぞれの道を歩きながら別れた。彼らは皆口には言わなかったものの、あの無鉄砲な青春時代の終りを、それぞれの心に感じていた――。

1974年 春《ビッグウェンズデー》

遂に、彼らが待ちに待ったその日が来た。マットはベア特製のロング・ボードをかかえ、浜辺に立った。警官たちの警告を無視し、多くのサーファーたちが挑戦してはじき飛ばされている。懐かしい青春の浜辺にはジャックとリロイが待っていた。昔と同じだ。黙って顔を見合わせるだけで言葉はいらなかった。とうとう俺たちの青春のけじめの日が来たのだ。3人はサーフ・ボードに乗って波に向った。

■今、人気急上昇！話題のヒット・メロディ！
《ビッグ ウェンズデー》サウンドトラック盤
「心に海を——ザ・ワールド・シー」
〈ワーナー・パイオニア・レコード〉



4月21日 ゴールデン・ウィーク ロードショー

*特別鑑賞券1000円(当日一般¥1300 大学生¥1200の処)発売中！

地下鉄東銀座下車
駐車場完備

東

劇 (541)
2711

日・祝 9:50 平日 12:10 2:30 4:50 7:10